

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03705

研究課題名（和文）市民社会における記録とアーカイブズの意義に関する国際比較研究

研究課題名（英文）International comparative research on significance of record and archives in civil society

研究代表者

藤吉 圭二（Fujiyoshi, Keiji）

追手門学院大学・社会学部・教授

研究者番号：70309532

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,800,000円

研究成果の概要（和文）：研究チーム各メンバーが、分担して研究活動に当たった。主な調査地はアメリカ、マレーシア、イランである。アメリカでは主にサンフランシスコGLBT歴史協会の活動およびいくつかの企業アーカイブズを、マレーシアでは主に伝統的地域共同体におけるIT活用の手法を、イランでは主に環境保護の市民活動が政府情報を利用する手法を実地に調査した。またサンフランシスコGLBT歴史協会の主要メンバーを日本に招聘し、資料収集・保存・展示を軸としたミュージアム活動が性的マイノリティのコミュニティにどのような効果を及ぼすかをテーマに国内3か所で講演会を開催し、当事者を含め国内でアーカイブズに関心を持つ人々との成果交流を深めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

組織や社会の記録、特に公的記録である公文書については近年の我が国でも重大な関心が集まっているが、それはしばしば廃棄、隠蔽、改竄などといった、記録管理のネガティブな側面に偏していると言わざるを得ない。本研究では社会によって記録や情報はどのような位置づけを与えられているかという課題について、「その記録・情報は誰のものか」という問いを念頭に、複数の異なる特徴を持つ社会を対象に調査研究した。その結果、国家の体制として近代的な民主制をとっている国でも、民主制の基本となる記録の位置づけや重みは民間（市民社会）レベルで異なり、単純な先進/後進というのではない視点で考察する必要があることがわかった。

研究成果の概要（英文）：Each member of the project team conducted a research according to the plan respectively. Main research area was the United States, Malaysia and Iran. In the United States, the main subjects were the activities of San Francisco GLBT Historical Society and those of some corporate archives. In Malaysia, the main subject was how a traditional community was vitalized with a help of Information Technology. In Iran, the main subject was how an environmental activist group utilized and mobilized the information obtained from the Government's archives. The project team also held a series of Open Forum where a founding and active member of San Francisco GLBT Historical Society gave a lecture on how archives helped make a community visible and vibrant.

研究分野：社会学

キーワード：アーカイブズ アカウンタビリティ レポートマネジメント ナレッジマネジメント LGBT 主権者教育 公文書管理 知る権利

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、いずれも研究代表者が進めてきた科研費補助金研究「オーストラリアと日本の自治体における業務記録管理システムの比較研究」(課題番号 18330117)および「国際比較に基づくアーカイブズと社会の関係に関する総合的研究」(課題番号 22330164)の成果をもとに構想された。前者では、オーストラリア・ヴィクトリア州政府における業務記録電子化プロジェクト Victorian Electronic Records Strategy (VERS)の調査研究を通じ、政府アーカイブズの適切な管理と公開に基づくアカウントビリティ確保について検討した。しかし、作成にせよ利用にせよ、政府活動の情報が市民にどの程度共有されるかは、社会的・文化的背景により大きく異なることがわかった。よって後者では、より広く、社会における記録とアーカイブズの位置づけを対象として、政府記録の管理や公開に社会的・文化的背景がどのように影響しているかを、オーストラリアはじめ数か国で調査し、それらを同一地平で考察するための理論枠組の整備を果たした。

前者の成果は、国際学会でセッションを設けて発表し、海外研究者とも議論して(The 38th IIS World Congress: <http://homepage3.nifty.com/fjosh/Budapest2007.htm>)後に英文報告書などにまとめた。後者の成果も、日本社会学会の英語セッション(<http://homepage3.nifty.com/fjosh/Nagoya2010.htm>)および国際学会で発表し(The 40th IIS World Congress: <http://homepage3.nifty.com/fjosh/2012Delhi.htm>)後に英文報告書などにまとめた。その結果、アーカイブズの社会的意義は、次の5レベルにおける研究を相互に関連づけながら進めることが必要との認識を得た。すなわち、(1)記録による業務コントロール、(2)ナレッジマネジメント、(3)市民社会とアーカイブズ、(4)社会統合とアーカイブズ、(5)市民活動としてのアーカイブズ、以上の5レベルにおいて、これまで協力関係を得てきた海外研究者とも連携して現地調査と理論研究を進め、成果を国際学会等で発表することをめざした。

2. 研究の目的

(1) 記録による業務コントロール

政府に限らず組織アーカイブズの適切な管理・公開には、記録作成方式の標準化が必要となる。特に電子化・ネットワーク化がこの標準化を世界的に推進している。記録作成スタイルの標準化は業務スタイルの標準化を促す。また現場では、自身の判断や活動が常に記録に残されるという意識を醸成し、その働き方にも影響する。政府組織を対象とした現地調査をもとに国際比較を進め、記録管理と業務遂行双方のスタイルの関連の特徴的要素を明らかにする。

(2) ナレッジマネジメント

VERSが保存・ウェブ公開する電子記録は外部だけでなく、政府の業務遂行過程でも参照・利用される。この点で記録管理 record management とナレッジマネジメントの相互関連の調査が必要である。特に日本では、現場知識の蓄積を人に依存する(ベテランの「生き字引」に頼る)側面の強く見られることをこれまでの研究で確認した。ナレッジマネジメント、人、記録という三者の関係を軸に、政府機関、民間企業両者の組織ガバナンスにおける記録活用のあり方について国際比較を進め、国、地域ごとの業務と記録の関係性の特徴を明らかにする。

(3) 市民社会とアーカイブズ

アーカイブズは政府など公的機関のアカウントビリティ確保に不可欠の要素だが、それが機能するためには「記録を通じて政府業務を制御する」ことが社会に定着している必要がある。戦後すぐの日本には国会図書館を政府アーカイブズとする構想もあったが結果として実現しなかった。記録を用いて国民が政府活動を制御するという考えが一種の「異文化」だったからだ。政府を監視するだけでなく、市民社会全般における「記録をベースにした共同作業」という文化の定着度は、政府活動に対して知る権利を行使する態度の基本である。この観点より、各国での主権者教育におけるアーカイブズの利用状況を調査し、市民によるアーカイブズ利用の国際比較によって各国における知る権利の内実を明らかにする。

(4) 社会統合とアーカイブズ

アーカイブズは、市民社会での政府のアカウントビリティ確保という政治的な役割を果たすが、それだけではない。国レベルに限らず一定地域のアーカイブズは、その領域の集会的・社会的アイデンティティ確保の拠り所として、人々に感情面でも働きかける。それは、単に出来事の記憶を人々に喚起するだけでなく、場合によってその記憶を一定方向に誘導しようとする働きをも持つ。これは一国内に限らず例えば戦争の記憶をどのように伝えるかといった事例では二国以上の関わる問題ともなる。統合の強調が亀裂を生む契機ともなるという緊張関係はアーカイブズの機能を考えるさい重要である。これは国によって最も多様性が見られる点で、国際比較を通じてそれらを一貫した視点で整理する。

(5) 市民活動としてのアーカイブズ

上記4点は主に公的機関のアーカイブズに着目し、特にアカウントビリティという視点は国家政府と市民社会の関係を重視するものだ。政府活動の情報がどれだけ市民社会に開かれているかは法制度の整備状況などにより比較的容易に確認できる。しかし、法制度が整備され、活用される背景には、政府のみならず広く組織的共同作業において記録の保管・蓄積を必要と見なす社会的了解が不可欠である。この点で、市民レベルでのアーカイブズ活動の実態は政府アカウントビリティ確保のための法的な整備状況の社会的背景を知る貴重な手がかりとなる。上記(3)(4)にまたがるレベルで展開されるこうした活動を各国で調査し、そこに見られる過去の共有と社会の維持に関する人々の意識の特徴を相互に比較しつつ明らかにする。

3．研究の方法

文献研究のほか海外研究者の協力を得て適宜現地調査を実施する。また研究成果は国内外の関連学会で発表するとともにメンバーそれぞれが論文、報告書等にまとめる。

4．研究成果

メンバーそれぞれが学会発表、学会誌等への投稿を行なう一方で、2018 年には、これまで調査の便宜を図っていただいていたサンフランシスコ GLBT 歴史協会のジェラード・コスコヴィッチ Gerard Koskovich 氏を招聘し、国内 3 か所（福岡、京都、東京）で公開講演会 Open Forum を実施し、国内の当事者を含むアーカイブズに関心を寄せる人々と知見の交流を行なった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 岡田順太, 磯村和人, 藤吉圭二	4. 巻 12
2. 論文標題 ウェルズファーゴ歴史博物館	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 白鷗大学法政策研究所年報	6. 最初と最後の頁 221-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Abe, Satoshi	4. 巻 5
2. 論文標題 Ethnographic Encounters with Muslims in Taiwan: Exploration of their Religious Senes and Experiences	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 239-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Abe, Satoshi	4. 巻 34
2. 論文標題 An Anthropological Inquiry into the Emergent Discourses and Practices of Environment in Iran: Framing through the Idea of Translation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本中東学会年報	6. 最初と最後の頁 35-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhiro Isomura	4. 巻 16
2. 論文標題 Examining creative leaders' practical-thinking methods on the basis of Chester Barnard's views	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 C G S A フォーラム	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横大道聡	4. 巻 40
2. 論文標題 六車明教授退職記念オーラルヒストリー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 慶應法学	6. 最初と最後の頁 327-359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhito Isomura	4. 巻 15
2. 論文標題 Exploring Chester Barnard's method of creating theory from experience and philosophy	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 CGSA Forum (Chuo University)	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Satoshi, Abe
2. 発表標題 Islamic Debates on the Environment: An Examination of Religious Rationales in Contemporary Iran
3. 学会等名 Religious Cultures in Asia: Mutual Transformations through Multiple Modernities (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi, Abe
2. 発表標題 Islamic Debates and Hermeneutics: Examination of Environmental Ethics in Iran
3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部哲
2. 発表標題 イランの環境問題をめぐるイスラーム議論
3. 学会等名 第26回「宗教と社会」学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 横大道聡	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 232 (うち105-114頁)
3. 書名 棟居・工藤・小山編『判例トレーニング憲法』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Respecting the Past, Empowering the Future http://fjosh524.in.coocan.jp/2018Gerard.htm</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 順太 (Okada Junta) (20382690)	獨協大学・法学部・教授 (32406)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横大道 聡 (Yokodaido Satoshi) (40452924)	慶應義塾大学・法務研究科(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	磯村 和人 (Isomura Kazuhito) (60241733)	中央大学・理工学部・教授 (32641)	
研究分担者	安倍 尚紀 (Abe Naoki) (90401710)	大分県立芸術文化短期大学・その他部局等・講師 (47501)	
研究分担者	阿部 哲 (Abe Satoshi) (90732660)	神戸大学・国際人間科学部・助教 (14501)	